

# 桜川文芸

## 俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】  
着せ菊を捌く菊師の爪厚し

藤田 凡鐘

虫しぐれ喪歸りの身の置きどころ

若色寿美女

佛画にもそれぞれの面石路の花

仁平 房女

なつかれて児の手のぬくし秋の声

金田とう女

草枯れて義民地蔵の凜と立つ

萩原 勅彦

常陸野を真白に染めて蕎麦の花

島田喜与子

口下手のまま五十年稲を刈る

萩原きしの

【茂山俳句会】

秋冷や句碑に声聴く寂峰忌

萩原 信一

時折の風に散る萩寂峰忌

吉原 秀子

句は日々の生きる証や秋の夜

鶴見 菊江

山茶花や寺史に加はる寂峰忌

竹林 てる

胡麻叩く静かに暮るゝ夕日影

田崎 信子

奥利根やもみあふ水の薄もみぢ

海老沢静夫

棒打の掛け声高く月高し

向後 礼子

諭すよに評す秋の句寂峰師

植田 祥雲

細りつゝ光りつゝ露一雫

須田 あや

名を呼べばちちろの闇や寂峰忌

今井 繁子

すゝき野へ消えし面影寂峰忌

井坂 洋子

ゆくりなく俳句に嵌り寂峰忌

鈴木ノブ子

水ほとり行けど花野の尽くるなし

宮本 芳江

人よりも少しおくれて花野径

松崎 いま

夕風に刈田の句ひほんのりと

大関 くに

花蕎麦の薄ずむころや寂峰忌

飯山 昭

## 短歌

【真壁短歌会】

放されて三年たちし牡雉の

鶏冠の赤冴えりりしくなりぬ

田中 要

待ち侘しひと雨去りて風鈴の  
音色は澄めり秋の氣の中

根本よし子

亡き母の仕草まざまざ蘇る

何時しか「どっこいしょ」が慣いとなりて

宮田 君江

庭隅の秋海棠の花淡く

ささやくような風にうなずく

青木 栄子

千年の夢追う筑波山麓に

復元の遺跡は官衛高床

市村 ヤス

好意という香り残して去りし人

熟年の夢露と消えたり

小林 和子

【一般投稿】

俄雨、銀の水玉抱く芋の葉

青蛙忍者のごとく葉のうらに

大山 しげ

## 俚謡

【さくら俚謡会】

野菊一輪手折りて髪に

孫と戯れ草紅葉

つく志輝美

皆様の忠告善意に受けて

いつも笑顔で暮らす老

岩瀬きみ子

白い手袋なよなよ振って

見せぬ手の内選挙戦

田 哲人

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ